

1 4 月及び 5 月の気象経過

4 月の気象は、県南地区で豊水の開花期前後となった 4/5 ～ 4/15 にかけて平均気温が平年を下回る日が多く、降雨もみられた。4 月下旬以降は、晴天日が続き気温が高く経過し、日照時間も平年を大きく上回った。5 月に入っても安定した気象となり、平均気温及び日照時間も平年を上回り、5 月中旬には台風の影響で降雨があった。

2 開花期

本年のなしの開花は、幸水では県南地区において開花始めが 4/12 と平年に比べ 5 日早くなった。県央及び県北とも同様の傾向となり、県全体では平年に比べ 3 日早い開花始めとなった。開花盛りも同様に平年に比べ 3 日早まった。

豊水は、幸水と同様に県南地区で 4/11 に開花始めとなり県全体では 4/15 で平年に比べ 3 日早まった。開花盛りも県全体で 4/21 で平年に比べ 3 日早まった。

3 満開後 40 日までの果実肥大状況

(1) 幸水の肥大は、満開後 30 日の果実横経で県平均が 24.8 mm であり、平年比 114 % と平年を上回る肥大となった。地区別においても、全ての地区で平年を上回り良好な肥大経過であった。果実縦経も同様に、県平均が 22.2 mm と平年を 2.7 mm 上回り、初期肥大は良好で、大果傾向で推移した(第 1 表、第 3 表)。

満開後 40 日の果実横経は、県平均 31.0 mm、平年比 111 % であり、縦経も平年を上回って経過した(第 1 表、第 3 表)。

(2) 豊水の果実肥大は、満開後 40 日の果実横経で県平均 29.8 mm、平年比 111 % と、幸水と同様に良好であった。幸水と同様に、全地区で平年を上回る果実肥大であった。果実縦経は、県平均で 28.1 mm と平年を 2.7 mm 上回っている(第 2 表、第 4 表)。

4 果実肥大予測

(1) 幸水の収穫時における果実肥大予測は、県全体の果実横経で 90.5 mm、平年比 97 % と平年をやや下回り、果重では 372g、平年比 92% と平年を下回る予測である。これは、5 月の高温により収穫期が前進化し、7 月の気温が平年を下回る確立が 40 % と高いことが要因である。

収穫予測は、収穫始めが佐野市で 8 月 8 日(平年比 - 4 日)、県平均で 8 月 13 日(平年比 - 7 日)であり、収穫盛りが佐野市で 8 月 12 日(平年比 - 9 日)、県平均で 8 月 19 日(平年比 - 9 日)であり、例年になく早まる事が予測される(第 1 表)。

(2) 豊水の収穫時における果実肥大予測(農業試験場)は、果実横経が平年比 102 % の予測となっている。また、収穫期予測は、収穫始めが県平均で 9 月 2 日(平年比 - 8 日)、盛りが 9 月 12 日(平年比 - 2 日)である(第 2 表)。

第1表 幸水の果実横径と収穫予測(mm、%)

	満開後30日		満開後40日		収穫予測			
	本年	平年	本年	平年	果実横径	果重	収穫始	収穫盛
大田原市	25.3	23.5	31.2	29.9	94.5	420	8月16日	8月22日
	+1.8	107.7	+1.3	104.3	97	94	-6	-8
高根沢町	23.9	20.8	29.6	26.5	86.7	362	8月15日	8月19日
	+3.1	115.0	+3.2	111.9	95	94	-6	-9
那須烏山市	22.6	20.8	29.2	26.3	89.1	359	8月15日	8月20日
	+1.8	108.7	+2.9	111.1	99	101	-7	-10
宇都宮市	26.0	21.5	32.3	27.9	91.6	370	8月13日	8月19日
	+4.6	121.2	+4.4	115.9	99	89	-6	-8
農業試験場	23.0	22.3	29.8	28.5	88.8	374	8月13日	8月25日
	+0.7	103.3	+1.3	104.7	94	90	-10	-8
芳賀町	22.7	20.8	27.9	26.8	88.8	353	8月12日	8月21日
	+1.9	108.9	+1.1	104.2	96	89	-9	-9
鹿沼市	24.3	21.0	30.6	27.2	88.9	341	8月12日	8月21日
	+3.4	116.0	+3.4	112.6	86	88	-8	-9
栃木市	26.0	21.6	32.4	28.1	89.7	349	8月9日	8月13日
	+4.4	120.3	+4.3	115.1	97	87	-7	-10
佐野市	25.4	23.4	31.9	30.1	95.9	420	8月8日	8月12日
	+2.0	108.6	+1.8	105.9	97	93	-4	-9
小山市	28.3	21.7	35.1	28.0	91.1	372	8月9日	8月13日
	+6.6	130.2	+7.1	125.2	97	94	-5	-8
平均値	24.8	21.7	31.0	27.9	90.5	372	8月13日	8月19日

注 満開後30日及び40日の上段は実測値、下段は平年比。

収穫予測の上段は予測値、下段は平年比。

第2表 豊水の果実横径と収穫期予測(mm、%)

	満開後40日		収穫期予測	
	本年	平年	収穫始	収穫盛
大田原市	32.9	28.7	9月5日	9月14日
	+4.2	114.7	-8	-2
高根沢町	28.4	25.2	9月4日	9月13日
	+3.2	112.7	-7	-1
那須烏山市	25.5	24.9	9月3日	9月12日
	+0.6	102.2	-8	-4
宇都宮市	32.0	26.8	9月2日	9月12日
	+5.2	119.3	-8	-1
農業試験場	31.0	28.5	9月4日	9月14日
	+2.5	108.7	-6	-2
芳賀町	26.3	23.8	9月3日	9月12日
	+2.5	110.5	-7	-2
鹿沼市	29.3	25.8	9月3日	9月13日
	+3.5	113.6	-9	-3
栃木市	30.5	27.8	8月28日	9月7日
	+2.7	109.6	-8	-4
佐野市	30.4	27.6	8月29日	9月7日
	+2.8	110.2	-5	-1
小山市	31.7	28.6	8月31日	9月8日
	+3.1	110.8	-5	0
平均値	29.8	26.8	9月2日	9月12日
	+3.0	111.2	-8	-2

第3表 幸水の果実縦経(mm)

	満開後30日		満開後40日	
	本年	平年	本年	平年
大田原市	22.9	20.7	26.9	26.0
高根沢町	21.7	19.1	26.5	23.5
那須烏山市	20.6	18.9	26.3	23.4
宇都宮市	24.4	19.5	28.8	24.4
農業試験場	19.9	19.9	25.6	25.2
芳賀町	20.4	19.2	24.6	24.1
鹿沼市	21.6	19.0	26.7	24.1
栃木市	22.7	19.1	28.4	24.3
佐野市	22.7	20.4	27.8	25.9
小山市	24.8	19.3	30.5	24.3
平均値	22.2	19.5	27.2	24.5

第4表 豊水の縦経(mm)

	満開後40日	
	本年	平年
大田原市	30.2	27.2
高根沢町	27.4	24.5
那須烏山市	23.7	23.8
宇都宮市	30.5	24.9
農業試験場	28.6	26.9
芳賀町	24.8	22.8
鹿沼市	28.5	24.5
栃木市	28.5	26.5
佐野市	28.9	26.1
小山市	29.8	27.0
平均値	28.1	25.4

5 今後の栽培管理

(1) 着果管理

2 回目以降の摘果となる仕上げ摘果及び補正摘果は、果実の形状、大きさを確認しながら丁寧に行う。

満開後 40 日までの果実肥大が良好であったことから、細胞分裂が順調に行われ細胞数が十分に確保されていると考えられる。今後、梅雨期間中が低温で経過した場合、梅雨明け直後に幸水の裂果が懸念されるので、今後の天候及び果実肥大に注意が必要である。また、開花期が安定した天候であり着果は良好であったことから、着果過多には十分注意する。

(2) 新梢管理

えき花芽着生促進を目的に、予備枝等の新梢が 45° となるよう 6 月下旬から 7 月上旬に誘引する。今後、曇雨天が続く場合、えき花芽の着生が少なくなることが予想され、利用可能な新梢は誘引を行う。

主枝・亜主枝の不定芽から発生した新梢は、1 か所当たり 2～3 本程度とし、結果枝を遮光しないよう誘引する。なお、主枝等の直上から発生した新梢はせん除する。

(3) 病虫害防除

黒星病の発生は、芽基部病斑は少なかったが、葉柄及び果実での発病が確認されており、多発しているほ場も見られている。また、6/8 に平年並みに梅雨入りし、気温も 25℃前後と本病菌の活動に適していることから、予防防除の徹底を図る。また、病斑が確認された葉や果実等は、速やかに取り除き、ほ場外で適正に処分する。多発園地では、側枝果そうの大半が発病している場合は、側枝ごと切除し園外で処分する。

長期間降雨が続く場合は、少雨時に薬剤散布を行い、長期間無防除にならないようにする。

なお、治療効果が高い QoI 剤や DMI 剤は、スピードスプレーヤーの速度を落とし薬剤が葉などに十分かかるよう散布する。

カメムシ類の発生は、平年並みである。また、山林における杉等のきゅう果着生が多いとされ、なし園への飛来は少ないと考えられる。ただし、飛来が確認された場合

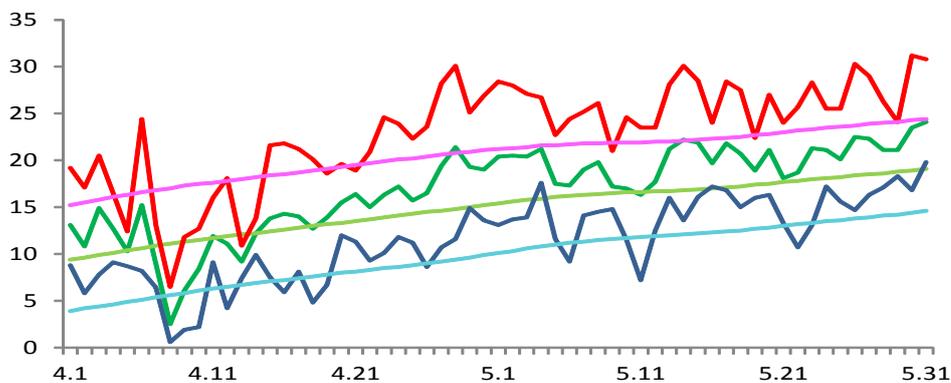
は、夕方又は早朝に防除を実施する。また、カメムシ類は、杉類以外にも核果類(さくらを含む)や桐等も好んで吸汁することから、ほ場周辺にある場合は注意する。
 薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守し、空き容器等は適正処理を励行する。

(3) 豊水のみつ症等果実生理障害対策について

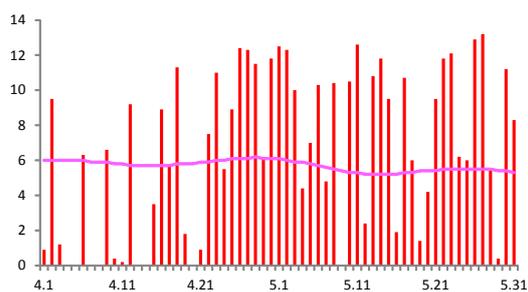
5月の気温が、平年に比べ高温に経過したことや、エルニーニョの影響により7月の気温が低く経過することが懸念されることから、豊水の果実生理障害の発生が平年より多くなることが予測される。

その軽減対策として、薬剤防除と同時に7月下旬までカルシウム剤を散布することが有効である。また、降雨が続く場合は、排水のため明きよを設置し、根の活動低下を防止する。

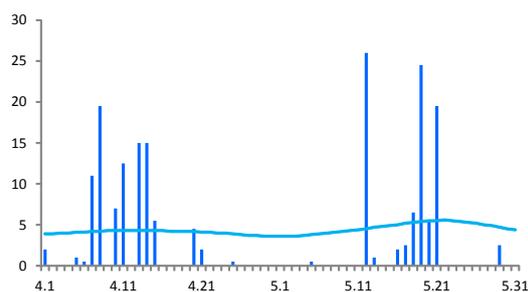
参考資料（気象庁発表データ）



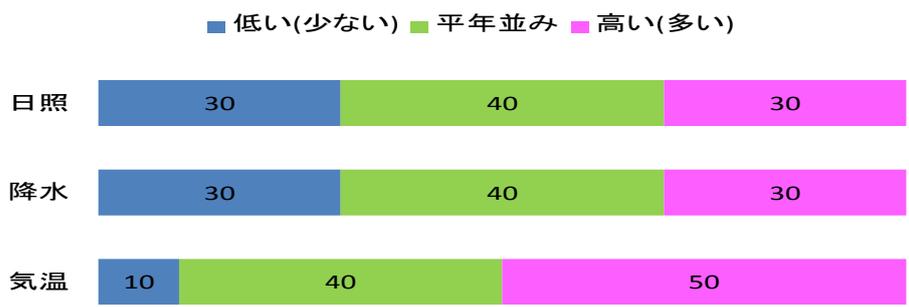
第1図 4月～5月の日別気温の経過(宇都宮)



第2図 4～5月の日別日照時間(宇都宮)



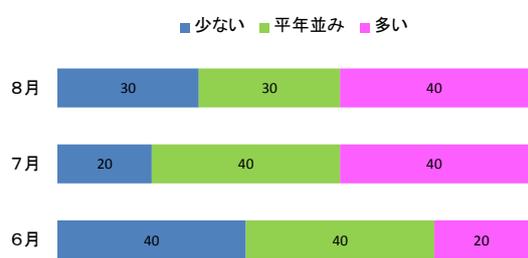
第3図 4～5月の日別降水量(宇都宮)



第4図 6/6～7/5の各階級の確率



第5図 6月～8月の気温の確率



第6図 6月～8月の降水量の確率